

市民がつくる環境都市こまき

こまき環境広報

編集：こまき環境市民会議

ゴミ減量のワンポイント情報

分別の盲点

雑がみは資源です！

ある日、集積場の白袋を開けてみて、びっくり！



白袋の中はあらゆる雑がみのオンパレード



何と白袋の50%に雑がみが・・・

雑がみのため方、出し方

その1



紙袋を雑がみ入れにして・・・
収集日にそのまま出せます

その2



段ボール箱に緑袋をセットして・・・
収集日に外して出す

雑がみの種類

- お菓子の箱・紙箱
- コピー紙・メモ紙
- はがき・封筒
- 包装紙・紙袋
- チラシ・ポスター
- トイレペーパーの芯

ゴミ減量の詳しいことは、廃棄物対策課発行「白袋を減らそう！」をごらんください。

ゴミとともに失われている20億円

小牧市がゴミ処理に使っている1年間の費用です。市民1人当たりでは1万3千円。1トン当たり3万5千円かかっています。必要最低限の費用はやむを得ませんが、埋めたり、燃やしたりする費用は、新たな価値を産むものではありません。このようなゴミの中には、分別不良の資源も意外に多く含まれていますので、税金の無駄づかいにもなっています。

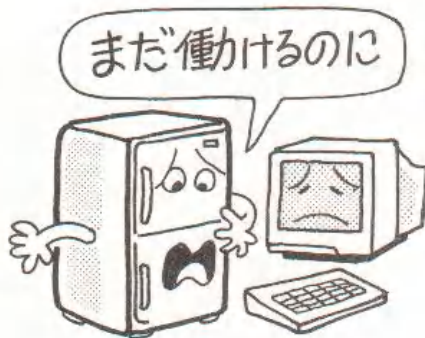
お金の損失だけではありません。埋めれば土壤汚染の危険、燃やせば温暖化を助長するといったおまけ付きです。私たちはこのような無駄づかいともいえる使い方を減らすには、どうゴミに向き合えばよいかを一人ひとりが我がこととして考えなければなりません。



分別とは資源とゴミを分けることです

お母さん、お父さん、もっともっと真剣に考えましょう

物があふれ、金さえ出せば何でも手に入る時代。大切に使う気持ちはどこへやら。安易な買い替えや廃棄。私たちの暮らしは、恐ろしいほど損失が増えました。



一人にとっては小さな損失かも知れませんが、積み重ねれば大変な損失となるのです。防ぐのは、市民一人ひとりの自覚しかありません。

理屈や言い訳をする前に、我が子の将来を考え、何としてでも環境を損なう生活習慣を改めなければなりません。習慣を変えることはなかなかむずかしいことですが、危機感を持たなければいよいよ至難なものとなります。

おばあちゃん、おじいちゃん、よろしくお願いします

戦後の苦しい時代を生きぬいてきたおばあちゃん、おじいちゃん。先々を考えない娘や息子、そして孫の生活態度があれば勇気をもって叱ってください。平気で食べ残す、すぐ買い換える、すぐ捨てる、資源をゴミにしてしまうずさんな分別。見過ごしていませんか。

おばあちゃん、おじいちゃんがいつも口にしてきた「もったいない」という言葉を教えてあげてください。ご存知でしょうか、「MOTTAINAI」は日本で生まれた環境を守るための国際的な合言葉です。生みの親としてぜひ取り戻したい言葉です。

孫の将来

もったいない
MOTTAINAI

生活環境は市民がつくるもの。環境都市こまきにふさわしい「環境にやさしい子を育てられる市民」でありたいものです。